

心のままに生きることこそが「性」 「コンドマスター」が滋賀にいた



自らがデザインした「びわこんどーむ」を手にする
清水美春さん

習うより触ってなれよう コンドーム

多くの講演会で中高生の視線を集めるのは、滋賀県内で高校の教員をしている清水美春さん。2年間青年海外協力隊でケニアに赴きHIV予防の啓発活動を行っていた経験を活かし、外部講師として多くの学生に「性」を考える場を提供している。実際にコンドームに触ることで生徒たちの当事者意識を駆り立てる。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、清水さん自身も対面での活動はすべてオンラインに切り替えている。そんな状況の中で「今はまだ関心の無い子にも聞いてもらえる」と講演会の良さを語ってくれた。

そんな清水さんの講演会は決まって「最後はあなたが決めてね」とバトンを渡した形で終わる。この言葉の裏には「自分の人生は自分で決めていい」という強い思いが込められている。「自分の本音を知り、相手に言葉で伝える」清水さんは一貫してコミュニケーションの大切さを語っていた。清水さんの性教育とは「心と身体」の教育である。

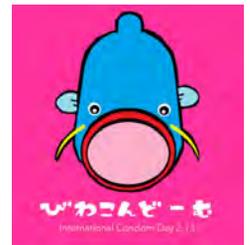
性教育のコレからとココから

現在の日本の教育における性教育の時間は少なく、最低限の知識を教わるだけで終わる「生殖器教育」であるため、性教育=SEXという印象が拭いきれない。清水さんの講演会には性にオープンな態度とより生徒個人が主体的に学べる環境づくり、知識だけでなく心の大切さと一人ひとり違った考え方を尊重した正解を求めない姿勢と性教育≠SEXという意識を生徒に届ける魅力と力がある。一人ひとりが自分だけの性の形を作っていく、その大切さを今の若者たちが考え実践し、実感していくことが次の世代にバトンを繋ぐための一歩である。より多くの学校の生徒が清水さんの講演会を聞き、滋賀から全国へ広がってほしい。この考え方が広がることで持続可能な性教育を支える土台を構築する。小さな一歩かもしれないが今後の性教育はさらに発展し続けると私たちは確信している。

「そうなんだ」の先のアクション

ケニアではコンドームを身近に感じてもらうためにゆるキャラ「コンドマスター」を発案。帰国後は滋賀の教員であることもあり、地元の人に愛される琵琶湖と掛け合わせたオリジナルキャラクターの「びわこんどーむ」を発案。コンドームへのハードルが下がってほしいという思いが込められている。

実際に「びわこんどーむ」のコンドームもつくり、イベントで配布している。「大学の生協で売っても面白いよね！」滋賀のご当地コンドームとしてこれからの展開に期待したい。



びわこオオナマズ
がモチーフ

取材先

清水美春さん

滋賀県の保健体育の高校教諭。2010年から2年間ケニアで中高生を中心としたHIVなど性感染症の啓発活動を行う。帰国後、外部講師として学生に、性の正しい知識とコンドームの大切さを伝えている。



取材者

滋賀大学 経済学部 1回生

中村 亮太

聖泉大学 看護学部 2回生

鈴木汐那